

1. 著書

2002 年度

- (1) 瀬戸賢一,小森道彦,山口治彦,辻本智子,小田希望,山添秀剛,武藤彩加,安井泉(2003),
『ことばは味を超えるー美味しい表現の探求』(共著),海鳴社,2003年3月,pp.241-300.

2010 年度 (一般書)

- (2) 大橋正房,武藤彩加,山本真人,爲国正子,汲田亜紀子,洪澤文明,小川裕子(2010),
『「おいしい」感覚と言葉ー食感の世代』(共著),株式会社 B/M/FT 出版部,2010年3月,pp.66-69.

2014 年度

- (3) 武藤彩加(2015),『日本語の共感覚的比喩』(単著),ひつじ書房,2015年2月,総ページ434頁.

2015 年度

- (4) 北村紗衣編(2016),『共感覚から見えるものーアートと科学を彩る五感の世界』(共著),
勉誠出版,2016年3月,pp.379-409.

2016 年度

- (5) 大橋正房他(2016),『ふわとろ SIZZLE WORD 「おいしい」言葉の使い方』(共著),BMFT 出版部,2016
年9月,pp.166-182.
(6) 広島市立大学国際学部<際>研究フォーラム編(2017)『<際>からの探求:つながりへの途』(共著),
文眞堂,2017年2月,pp.99-138.

2. 論文

2-1. 査読有り学術論文

2000 年度

- (1) 武藤彩加(2001),「接触感覚から遠隔感覚」と「遠隔感覚内」の意味転用に関する一考察ー「共感覚的
比喩」を支える複数の動機付けー(単著),『言葉と文化』第2号,名古屋大学大学院国際言語文化研究
科,2001年3月,pp.125-142.

2001 年度

- (2) 武藤彩加(2001),味覚形容詞「甘い」と「辛い」の多義構造(単著),『日本語教育』第110号,日本語教育
学会,2001年7月,pp.42-51.
(3) 武藤彩加(2002),「おいしい」の新しい意味と用法ー「うまい」「まずい」と比較してー(単著),『日本
語教育』第112号,日本語教育学会,2002年1月,pp.25-34.

2004 年度

- (4) 武藤彩加(2004),「共感覚的比喩(表現)」の動機付けに関する整理と分類(単著),『日本認知言語学会
論文集』第4巻,日本認知言語学会,2004年9月,pp.99-108.

2007年度

- (5) 武藤彩加(2008),「共感覚的比喩」の一方向性仮説における反例の検証と課題—7つの言語を対象とした「視覚を表す語」に関する予備調査の結果から(単著),『留学生教育』第5号,琉球大学留学生センター,2008年3月,pp.1-18.

2009年度

- (6) 武藤彩加(2009),9つの言語における「共感覚的比喩」—「触覚を表す語」と「視覚を表す語」を中心に(単著),『日本認知言語学会論文集』第9巻,日本認知言語学会,2009年5月,pp.181-190.

2010年度

- (7) 武藤彩加,副島健作,山元淑乃(2010),共感覚的比喩の「視覚」表現—ロシア語とフランス語を中心に(共著),KLS 30 (Proceedings of Kansai Linguistic Society),関西言語学会,2010年9月,pp.203-214.
- (8) Ayaka MUTO (2010) ,An Examination of Synesthesia Metaphor in English and French (単著) ,Proceedings of the 2010 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL-2010),June2010, Accepted as a full paper, in CD-ROM (10pages).

2011年度

- (9) 武藤彩加(2011),スウェーデン語における「味を表す表現」の収集と分類(単著),『日本認知言語学会論文集』第11巻,日本認知言語学会,2011年6月, pp.234-244.

2012年度

- (10) 副島健作,武藤彩加(2012),日本語学習者の「テクスチャー表現」の使用について—沖縄の留学生を対象に(共著),『ヨーロッパ日本語教育』第16号,ヨーロッパ日本語教師会(AJE),2012年6月,pp.166-170.
- (11) 副島健作,武藤彩加(2013),日本語学習者による「テクスチャー(食感)表現」の使用(共著),『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第8号,東北大学高等教育開発推進センター,2013年3月,pp.27-38.

2013年度

- (12) 武藤彩加(2013),韓国語における「味を表す表現」の類型化—日本語と韓国語の比較を通して(単著),『韓国日本語学会論文集』第37号,韓国日本語学会,2013年9月,pp.17-35.

2014年度

- (13) 副島健作,金城尚美,武藤彩加(2014),中国における日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因(共著),『国際文化研究科論集』第22号,2014年12月,pp.19-31.
- (14) 副島健作,李郁恵,武藤彩加(2015),日本語学習者の日本語力と学習ストラテジーおよび動機づけとの関係—中国とロシアの大学生の比較—(共著),『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第1号,東北大学高度教養教育・学生支援機構,2015年3月,pp.37-47.

2016年度

- (15) 武藤彩加(2016),日本語におけるテクスチャーを表すオノマトペスウェーデン語と英語,および韓国語と比較してー(単著), Journal CAJLE Vol.17, Canadian Association for Japanese Language Education,2016年7月,pp.64-86.
- (16) 武藤彩加(2016),英語母語話者によるおいしさの表現ー日本語との比較を通して(単著),『広島国際研究』22号,広島市立大学国際学部,2016年11月,pp.105-115.

2017年度

- (17) 武藤彩加(2017),中国語の味を表す場面における「話者に意識されない男女差」ー母語話者を対象としたアンケートに基づく事前調査(単著),2017年11月,『広島国際研究』第23号,広島市立大学国際学部,pp.93-105.
- (18) 武藤彩加(近刊),味を表す場面における「事態把握」に関する一考察ー複数の言語との比較から(単著),『カイロ大学日本研究所創設記念シンポジウム論文集』,カイロ大学文学部.
- (19) 武藤彩加(印刷中),味を表す表現における動機づけに関する一考察ー生理的動機づけ,認知的動機づけ,および環境的動機づけ(単著),『日本認知言語学会論文集』第18巻.

2-2. 査読無し学術論文

2000年度

- (20) 武藤彩加(2000),味覚形容詞「渋い」と「苦い」の意味分析ー類似性と相違性の指摘ー(単著),『韓日語文論集』第4号,韓日日語日文学会,2000年8月,pp.249-267.
- (21) 武藤彩加(2000),「感覚間の意味転用」を支える「メタファー」と「メトニミー」ー「共感覚的比喩」とは何かー(単著),『ことばの科学』第13号,名古屋大学言語文化部言語文化研究会,2000年12月,pp.97-116.
- (22) 武藤彩加(2001),動詞「きく」(聞・聴・訊・効・利)の意味分析(単著),『名古屋大学日本語・日本文化論集』第9号,名古屋大学留学生センター,2001年12月,pp.1-24.
- (23) 武藤彩加(2001),「共感覚的比喩(表現)」の「特殊性」についてー「共感覚(色聴)」現象との関連性,および「身体性にに基づく制約」をめぐる一考察ー(単著),『紀要』第16号,名古屋明德短期大学,2001年3月,pp.179-200.

2001年度

- (24) 武藤彩加(2002),味覚形容詞「酸っぱい」の意味(単著),『紀要』第17号,名古屋明德短期大学,2002年3月,pp.73-89.

2002年度

- (25) 武藤彩加(2002),五感を表す動詞「きく」「ふれる」「におわせる」における「発話行動的意味」の分析(単著),『名古屋大学日本語学研究室 過去・現在・未来』,名古屋大学文学研科,2002年4月,pp.167-

2003 年度

- (26) 武藤彩加(2003),日本語の「共感覚的比喩(表現)」に関する記述的研究,名古屋大学国際言語文化研究科博士学位論文,2003年12月.

2005 年度

- (27) 武藤彩加(2006),『源氏物語』における擬音語と擬態語の特徴について—『蜻蛉日記』と『狭衣物語』,および『紫式部日記』との比較から—(単著),『ポリグロシア』第11号,立命館アジア太平洋大学,2006年3月,pp.115-126.

2-3. プロシーディング,その他の公刊物

- (1) 武藤彩加(2001),日本語の「五感を表すオノマトペ」における意味の転用—「共感覚的比喩」の分析を通して—(単著),『日本認知科学会第18回大会発表論文集』,日本認知科学会,2001年6月,pp.30-31.
- (2) 武藤彩加(2003),「共感覚的比喩(表現)」の動機付けに関する整理と分類(単著),『JCLA Conference Handbook 2003』,日本認知言語学会,2003年9月,pp.63-66.
- (3) 武藤彩加(2008),9つの言語における「共感覚的比喩」—「触覚を表す語」と「視覚を表す語」を中心に(単著),『JCLA Conference Handbook 2008』,日本認知言語学会,2008年9月,pp.135-138.
- (4) Ayaka MUTO(2010),An Examination of Synesthesia Metaphor in English and French (単著),Abstracts The 2010 Seoul International Conference on Linguistics,pp.200-202,2010年6月.
- (5) 武藤彩加(2010),スウェーデン語における「味を表す表現」の収集と分類(単著),『JCLA Conference Handbook 2010』,日本認知言語学会,2010年9月,pp.169-172.
- (6) 武藤彩加(2011),4言語における共感覚的比喩—フランス語,スウェーデン語,英語,および日本語母語話者を対象とした調査の結果から(単著),『JSLs 2011 Conference Handbook』,言語科学会第13回年次国際大会(JSLs 2011),2011年6月,pp.39-42.
- (7) 武藤彩加(2011),『科学研究費補助金 研究成果報告書 共感覚的比喩の『一方向性仮説』に関する研究(研究課題番号 19720096)』(単著),研究代表者,2011年3月.
- (8) 武藤彩加(2013),韓国語における「味を表す表現」の収集と分類(単著),『韓国日本語学会第28回学術発表会予稿集』,韓国日本語学会,pp.84-90,2013年3月.
- (9) 武藤彩加(2014)「英語母語話者によるおいしさの表現—韓国語と日本語との比較を通して—」『第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集』,香港日本語教育研究会・香港大学專業進修学院,pp.293-297,2014年11月.
- (10) 武藤彩加(2016)「中国語母語話者による味を表す表現—日本語との比較から」,『日本語教育学会研究会第2回中部地区予稿集』,日本語教育学会,pp.21-24,2016年6月.

3. その他

3-1. 研究発表 (国際会議)

- (1) 武藤彩加(2000),味覚形容詞「渋い」と「苦い」の意味分析—類似性と相違性の指摘—(単独),第6回韓日日語日文学会(2000年8月18日),於釜山外国語大学.
- (2) Ayaka MUTO(2010),An Examination of Synesthesia Metaphor in English and French (単独),Paper presented at The 2010 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL-2010) on June 24,2010,in Seoul, Korea.
- (3) 武藤彩加(2011),4言語における共感覚的比喩—フランス語,スウェーデン語,英語,および日本語母語話者を対象とした調査の結果から (単独),言語科学会第13回年次国際大会 JSLs 2011(2011年6月25日),於関西大学.
- (4) 副島健作,武藤彩加(2011),日本語学習者の「テクスチャー表現」の使用について—沖縄の留学生を対象に(共同),The13th EAJS International Conference(2011年8月26日),於エストニア・タリン大学.
- (5) 副島健作・金城尚美・武藤彩加(2012),中国における日本語学習者の学習スタイルおよび動機づけに関する研究—中国人学習者の日本語力に影響を及ぼす要因—(共同),2012年日本語教育国際研究大会 ICJLE2012(2012年8月18日),於名古屋大学.
- (6) 武藤彩加(2013),韓国語における「味を表す表現」の収集と分類 (単独),韓国日本語学会第28回学術発表会 (2013年3月23日),於韓国・東国大学校.
- (7) 武藤彩加・副島健作 (2013),「食感」表現使用の言語差—日本語母語話者と韓国語母語話者との比較— (共同),韓国日本近代学会第28回国際学術大会(2013年,10月26日),於沖縄国際大学.
- (8) 副島健作・武藤彩加 (2014),日本語学習者の日本語力に影響を及ぼす外的学習者要因—中国とロシアとの比較—(共同),日本語教育国際研究大会 Sydney-ICJLE2014 (2014年7月11日),於オーストラリア・シドニー工科大学.
- (9) 武藤彩加・副島健作(2014),日本語の「共感覚的比喩」の一方方向性仮説に関する分析—日本語の五感を表す「動詞」と「副詞」,および「形容詞」の意味転用の方向性— (共同),The14th International Conference of EAJS(2014年8月29日),於スロベニア・リュブリャナ大学.
- (10) 武藤彩加(2014),英語母語話者によるおいしさの表現—韓国語と日本語との比較を通して— (単独),第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム—The10th International Symposium for Japanese Language Education and Japanese Studies(2014年11月15日),於香港大学.
- (11) 武藤彩加(2015),日本語母語話者による「味を表す表現」—スウェーデン語と英語,および韓国語との比較を通して— (単独),CAJLE 2015年次大会,Canadian Association for Japanese Language Education 2015 (2015年8月20日),於サイモンフレーザー大学ハーバーセンター.
- (12) 武藤彩加 (2016),「味を表す表現」使用にみられる男女差—中国語母語話者を対象とした調査から— (単独),日本語教育国際大会 Bali ICJLE2016 (2016年9月9日),於インドネシア・バリヌサドゥアコンベンションセンター.

- (13) 武藤彩加(2017),日本語の事態把握に関する一考察—複数の言語における味を表す場面との比較から(単独),2017年7月15日,カイロ大学『日本学研究所』創設記念シンポジウム(非西欧社会の近代化再考:日本とアラブ(エジプト)の場合),於エジプト,カイロ大学文学部.
- (14) 武藤彩加(2017),「味覚の共感覚表現」の動機づけに関する一考察(単独),2017年12月9日,シンポジウム:「オノマトペ、共感覚とメタファー:3つの認知的現象をめぐって」,日本語用論学会メタファー研究会,於広島国際大学(招待講演).

3-2. 研究発表(国内)

- (15) 武藤彩加(2000),日本語の「共感覚的比喩(表現)の一方方向性」に関する考察(単独),日本認知言語学会設立記念大会(2000年9月9日),於慶應義塾大学.
- (16) 武藤彩加(2001),「共感覚的比喩(表現)」の理解に関する考察—多義語の分析を通して—(単独),関西認知言語学研究会第27回例会(2001年4月28日),於大阪大学.
- (17) 武藤彩加(2001),日本語の「五感を表すオノマトペ」における意味の転用—「共感覚的比喩」の分析を通して—(単独),日本認知科学会第18回全国大会(2001年6月8日),於公立はこだて未来大学.
- (18) 武藤彩加(2002),五感を表す動詞「きく」「ふれる」「におう」における「発話行動的意味」の分析(単独),名古屋・ことばのつどい大研究発表会(2002年2月24日),於名古屋大学.
- (19) 武藤彩加(2003),共感覚的比喩(表現)の動機付けに関する整理と分類(単独),日本認知言語学会第4回全国大会(2003年9月14日),於明治学院大学.
- (20) 武藤彩加(2007),共感覚的比喩の一方方向性仮説における反例の検証と課題—7つの言語を対象とした「視覚を表す語」に関する予備調査の結果から(単独),沖縄県日本語教育研究会2006年度第3回研究発表会(2007年3月8日),於琉球大学.
- (21) 武藤彩加(2008),9つの言語における「共感覚的比喩」—「触覚を表す語」と「視覚を表す語」を中心に(単独),日本認知言語学会第9回全国大会,(2008年9月14日),於名古屋大学.
- (22) 武藤彩加,副島健作,山元淑乃(2009),共感覚的比喩の「視覚」表現—ロシア語とフランス語を中心に(共同),関西言語学会第34回大会,(2009年6月6日),於神戸松蔭女子学院大学.
- (23) 武藤彩加(2010),スウェーデン語における「味を表す表現」の収集と分類(単独),日本認知言語学会第11回全国大会(2010年9月12日),於立教大学.
- (24) 金城尚美・武藤彩加・副島健作・玉城あゆみ(2012),中国の日本語学習者のコミュニケーション能力—中国の日本語教育の現状—(共同),沖縄県日本語教育研究会2011年度研究発表会(2011年3月10日),於琉球大学.
- (25) 武藤彩加・副島健作(2012),テクスチャー(食感)表現使用にみられる男女差について(共同),言語文化学会第26回大会(2012年12月8日),於阪南大学.
- (26) 副島健作・武藤彩加(2013),韓国語母語話者は「食感」をどう表現するか—日本語母語話者との比較か

ら- (共同), 沖縄県日本語教育研究会 2011 年度研究発表会 (2013 年 3 月 1 日), 於琉球大学.

(27) 武藤彩加(2014), 「味」のレトリック—日韓の TV コマーシャルで使用されている「おいしさ」の表現— (単独), 社会言語科学会第 34 回大会(2014 年 9 月 13 日), 於立命館アジア太平洋大学.

(28) 武藤彩加(2016), 中国語母語話者による味を表す表現—日本語との比較から(単独), 日本語教育学会研究集会第 2 回中部地区 (2016 年 6 月 11 日), 於愛知県立大学.

3-3. 研究資金の獲得状況

(1) 2006 年 4 月～2007 年 3 月, 五感内の意味転用に関する研究, 立命館アジア太平洋大学言語教育センター研究助成, 研究代表者.

(2) 2007 年 4 月～2011 年 3 月, 文部科学省研究補助金, 若手研究(B), 共感覚的比喩の一方向性仮説に関する研究, 課題番号 19720096, 研究代表者, 獲得額 3,900 千円.

(3) 2012 年 4 月～2016 年 3 月, 文部科学省研究補助金, 基盤 (C), 複数の言語における「味を表す表現に関する研究. 課題番号 24520473, 研究代表者, 獲得額 4,607 千円.

(4) 2014 年度, 文部科学省研究補助金, 研究成果公開促進費(学術図書), 『日本語の共感覚的比喩』(単著), 課題番号 265075.

(5) 2016 年 4 月～2021 年 3 月 (予定), 文部科学省研究補助金, 基盤 (C), 味覚語彙における普遍性と相対性に関する研究, 課題番号 16K02636, 研究代表者, 獲得額: 4,290 千円.